

粕谷和夫の観察日より。咲いた、咲いた、チューリップの花が、並んだ、並んだ、赤黄色。4月6日の湯殿川での野鳥定期カウントの一コマです。川沿いの畑で思わず童謡を口ずさんでしまいました。チューリップの後ろの花はナズナとホトケノザ。湯殿川ではカワセミが1羽、クイナが2羽確認できました。

# 紅葉台



# 新聞

第127号

2024年  
4月27日

発行人：関谷 孝

## 粕谷会長の観察日記



田んぼの上の電線から地面で動く虫に狙いを定めて飛び降りる直前のモズ(メス)です。

100%成功するわけではないので、うまく獲物を捕らえられたかどうかは不明です。モズのバックの黒いものは民家の屋根です。



んな美しい山野草が身近で見られたらいいな」「もうここには一人で来ることにも出来ないから」と話していたことに心を動かされたそうです。それなら、「身近なところで花を見られるようにしよう」と地域の方の

協力を得て、山野草を育て守ってきました。今ではその甲斐があってカタクリの花・クマガイソウ・福寿草の群生を近くで見ることが出来ます。個人の方の裏山ですが、山の斜面一帯にカタクリの花が咲いていました。他にも、アズマイチゲやフキノトウ、ニリンソウなども咲いていました。地元の人たちの墓地の斜面や蛇塚にもカタクリの群生があります。そのために暑い夏の日



に草刈りをしています。また、地域の方が喜ぶようにと水芭蕉やザゼンソウを植樹して育てています。そんな秘密の場所に案内してもらいました。(知りたい方は個別に

教えます) この地域はお年寄りが多く裏山や庭の手入れが大変です。Sさんは自分から進んで草刈りをしています。それは、人助けだけでなく、この地域を大切に、みんなが住みやすい



街にしたいとの思いがあります。以前川口町のアナベルというアジサイの花を育てている高野さんを紹介しましたが、同じように地域を愛する思いがこのような活動を支えていることに素晴らしいことだと感じました。そう思うと花を見て人の心を思うことに繋がり、一層その美しさを感じ心癒される思いがしました。



川町谷戸の田んぼのため池、水ぬるむ春、大きなヒキガエルが3匹、水中にいてバトルしていました。多分このカエルはオスで産卵が始まる夜間までメスがやってくるのを待っているものと思われる。



3月29日、午前の本降りの雨が上がり、午後は好天になりました。しかも本格的な春が訪れたような陽気になりました。久しぶりの暖かさに誘われて墓参りに行き、近くの川口川に行ってみました。そこにはヨシガモという珍しいカモのペアがいて餌をとっていました。このカモもそろそろ北の国の繁殖地に旅立つものと思われる。



八王子市内の某公園、冬を越したススキの穂です。ススキ自らがこのような美しい姿に変身していました。しばし見とれてしまい、カメラに収めました。



ツバメシジミの春型です。翅裏の赤い斑点が特徴でチャミングです。翅の後ろからツバメのように「尾」が出ていることにご注目ください。4月1日多摩川の河原です。

## 南高尾は自然の宝庫

3月31日一気に暖かくなった日、南高尾の地元の方の案内で秘密の場所に案内してもらいました。なぜ秘密かということ、多くの人に知られると盗掘やたくさんの方が来て荒らしてしまうということがあるからと言っていました。

地元で長く住んでいるSさんは、地域のお年寄りが元気に暮らしていることを大事に思っています。ある日、地域のお年寄りの方と山へ一緒に登っていった時に、「こ

## 梅ノ木平は・・・おまけの話



左の写真は、関東ふれあいの道の起終点です。南高尾の梅ノ木平の近くに石碑が立っています。見落としがちですが、ここから関東地方1都6県をぐるりと一周する長

距離自然歩道で総延長は1,800kmあります。皆さんもハイキングなどで「関東ふれあいの道」の標識に出会ったことがあると思います。この高尾が起終点というのも不思議なご縁です。関東ふれあいの道は、美しい自然や田園風景、歴史や文化遺産に触れあうことが出来ます。10km前後に区切った日帰りコースを160コース設定し、それぞれ鉄道やバスに連絡できるようになっています。皆さんも体づくりもかねてチャレンジしてみるのもいいのではないのでしょうか。もし、行かれたならこの新聞に投稿してください。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。